

# **香川県埋蔵文化財センター年報**

平成 22 年度

2011. 9

香川県埋蔵文化財センター

## は　じ　め　に

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設立されました。

平成22年度は、埋蔵文化財の発掘調査及び整理、報告書刊行、出土品の保管・管理、普及啓発事業、緊急雇用創出基金事業、讃岐国府跡探索事業などを実施しました。

発掘調査事業は、国道建設、病院建設、県道整備などの事業に伴って、4遺跡で13,533m<sup>2</sup>の発掘調査を実施しました。

整理・報告事業では、病院建設、県立学校新設などの事業に伴う2遺跡の出土品の整理と、国道建設に係わる遺跡の報告書を刊行し、調査成果を公表しました。

普及啓発事業では、当センターの展示室で常設展を行う以外に、四国の埋蔵文化財センター合同の巡回展「続・発掘へんろ～四国の弥生時代～」を始めとした特別展や、「埋蔵文化財発掘調査速報展」などの展示を行うとともに、出土品を地元で公開する「ふるさと展示」を県下各地で行いました。また、広報誌「いにしえの讃岐」や研究紀要の刊行以外に、学校での出前授業や考古学体験講座を通じて、埋蔵文化財の保護意識の普及・啓発に努めました。

緊急雇用創出基金事業では、当センター設立以前に調査された遺跡の出土品の分類作業などを行いました。

4年計画の2年目に当たる讃岐国府跡探索事業は、従来不明確であった讃岐国府の実態を明らかにすることで地域の活性化を目指した事業です。今年度は、ボランティア調査員を中心にして坂出市加茂町周辺で地名調査、地形調査を、坂出市府中町で発掘調査を実施しました。また、讃岐国府の解説書として「讃岐国府の時代」を刊行しました。

最後になりましたが事業の実施に際して、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、当センターの運営につきましては、今後とも皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとします。

平成23年9月

香川県埋蔵文化財センター

所長　藤好史郎

## 目 次

I 組織・施設・決算	
1. 香川県埋蔵文化財センターの組織	1
2. 施設の概要	2
3. 決算の状況	2
II 事業概要	
1. 埋蔵文化財調査事業	
事業概要	3
田中遺跡	5
旧練兵場遺跡	7
多肥北原西遺跡	13
太田原高州遺跡	15
2. 普及・啓発事業	
1 展示	17
2 現地説明会・地元説明会	18
3 講師の派遣	18
4 坂出市立府中小学校との連携授業（よろこび学習）	20
5 夏休み子どもミュージアム	20
6 考古学講座	20
7 文化ボランティア活動	20
8 四国新聞への連載	21
9 資料の貸出・利用	21
10 職場体験学習	21
11 刊行物	21
12 ホームページ	21
3. 緊急雇用創出基金事業	22
4. 讃岐国府跡探索事業	23
III 讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告	25

## 挿図目次

第1図 発掘調査道路位置図	4	多肥北原西遺跡	
田中遺跡		第9図 遺跡位置図(1/25,000)	13
第2図 遺跡位置図(1/25,000)	5	太田原高州遺跡	
第3図 SD05出土琴柱形石製品実測図	6	第10図 遺跡位置図(1/25,000)	15
第4図 造構平面図	6	讃岐国府跡探索事業	
旧練兵場遺跡		第11図 加茂町地形復元図	25
第5図 遺跡位置図(1/25,000)	7	第12図 地目・地位等級分析図(綾川右岸部分)	26
第6図 造構変遷図	9	第13図 加茂町の地名分布図	27
第7図 造構配置図(西部半)	10	第14図 遺跡位置図(1/25,000)	28
第8図 造構配置図(東部半)	11	第15図 奈良～平安時代の造構配置図	29

## 写真目次

田中遺跡		写真14 7区で検出した並行する溝状遺構	14
写真1 SD01護岸施設	6	写真15 11区で検出した溝状遺構	14
旧練兵場遺跡		太田原高州遺跡	
写真2 調査地遠景(西北から)	8	写真16 1区で検出した堅穴住居跡	15
写真3 古代の造構掘削状況	9	写真17 1区西南隅の堅穴住居跡	15
写真4 掘立柱建物跡 (保護帽とひさし付保護帽の2棟)	9	写真18 2区で検出した堅穴住居跡	16
写真5 調査風景	11	写真19 2区全景(中央左側に堅穴住居跡が見える)	16
写真6 現地説明会風景	11	写真20 3区で検出した堅穴住居跡 (搅乱によって破壊されている)	16
写真7 土師器焼成坑	12	緊急雇用創出基金事業	
写真8 四面掘削状況	12	写真21 出土品の接合作業	22
写真9 破碎した甕にのせられた獸骨	12	写真22 出土品の実測作業	22
写真10 8区SX02遺物出土状況	12	讃岐国府跡探索事業	
写真11 中世の石組井戸	12	写真23 標高測量風景	25
多肥北原西遺跡		写真24 石列状遺構	29
写真12 検出した噴塗の断面	13	写真25 調査地遠景	29
写真13 検出した堅穴住居跡	13	写真26 刻書須恵器	29

## 表目次

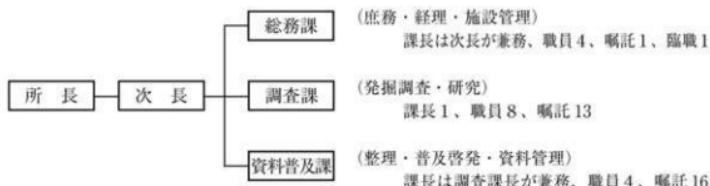
第1表 職員一覧	1	第11表 センター外展示一覧	17
第2表 発掘調査決算	2	第12表 現地説明会・地元説明会一覧	18
第3表 整理・報告決算	2	第13表 体験講座への講師派遣一覧	18
第4表 管理運営費等決算	2	第14表 学校への講師派遣一覧	19
第5表 発掘調査遺跡一覧	3	第15表 講演等への講師派遣一覧	19
第6表 遺跡の概要一覧	3	第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧	20
第7表 整理・報告道路一覧	4	第17表 夏休み子どもミュージアム実施事業一覧	20
第8表 刊行報告書一覧	4	第18表 考古学講座一覧	20
第9表 展示一覧	17	第19表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)	21
第10表 入館者数一覧	17	第20表 場所体験学習一覧	21

\* 地図は国土地理院地形図を使用しました。

# I 組織・施設・決算

## 1. 香川県埋蔵文化財センターの組織

### (1) 組織



### (2) 職員

所 属	職 名	氏 名
所 長		大 山 真 充
次 長		深 谷 右
総 務 課	課 長 (兼務)	深 谷 右
	副 主 幹	林 文 夫
	主 任	福 井 良 子
	主 任	古 市 和 子
	主 任	広 澄 健 一
	嘱 託	吉 村 高 志
	臨時職員	佐 野 恵 子
調 査 課	課 長	西 岡 達 蔽
	主任文化財専門員	北 山 健 一 郎
	主任文化財専門員	森 格 也
	主任文化財専門員	木 下 晴 一
	文化財専門員	森 下 友 子
	文化財専門員	歳 本 晋 司
	文化財専門員	宮 崎 哲 治
	文化財専門員	佐 藤 龍 馬
	文化財専門員	松 本 和 彦
	嘱 託	砂 川 哲 夫
	嘱 託	木 全 加 珠 美 (~ 23.1.31)
	嘱 託	白 木 享
	嘱 託	塩 治 千 佳 子
資料普及課	嘱 託	東 渕 愛
	課 長 (兼務)	西 岡 達 蔽
	主任文化財専門員	西 村 尋 文
	文化財専門員	山 下 平 重
	文化財専門員	信 里 芳 紀
	文化財専門員	乗 松 真 也

第 1 表 職員一覧

## 2. 施設の概要

(1) 所在地 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

(2) 敷地面積 11,049.23m<sup>2</sup>

(3) 建物構造・延床面積

①本館	鉄筋コンクリート造・2階建 (一部鉄骨造・平屋建)	1,362.23m <sup>2</sup>
②分館	鉄骨造・2階建	337.35m <sup>2</sup>
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32m <sup>2</sup>
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33m <sup>2</sup>
⑤車庫	鉄骨造・平屋建	29.97m <sup>2</sup>
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00m <sup>2</sup>

## 3. 決算の状況

(単位:円)

原因者	遺跡名	決算
普通寺病院	旧練兵場遺跡	151,508,926
国土交通省	田中遺跡	28,255,402
道路課	多肥北原西遺跡	49,681,221
	太田原高州遺跡	19,614,302
合計		249,059,851

第2表 発掘調査決算

(単位:円)

原因者	遺跡名	決算
普通寺病院 (国立病院機構本部)	旧練兵場遺跡	74,696,680
高校教育課	鹿伏・中所遺跡	28,258,505
国土交通省	別宮北遺跡・別宮北古墳群	638,052
合計		103,593,237

第3表 整理・報告決算

(単位:円)

管理運営費等	管理運営費	9,506,773
	職員給与費(※)	149,096,111
	讃岐国府跡	2,000,000
	探索事業	
緊急雇用 対策事業	小計	160,602,884
	学校及び地域等における出土品の活用推進	6,697,819
合計		167,300,703
※受託事業分 ￥87,895,106 を再掲		

第4表 管理運営費等決算

## II 事業概要

### 1. 埋蔵文化財調査事業

#### 事業概要

調査課は、4班体制で県道整備、普通寺病院統合、国道バイパス建設等に伴う4遺跡の発掘調査を行い、資料普及課は、3班体制で普通寺病院統合及び高校建設に伴う2遺跡の整理及び報告と、国道改良に伴う1遺跡の報告を行った。

発掘調査では、普通寺病院統合事業に伴う旧練兵場遺跡の調査を3班体制で大規模に実施したことや、国道バイパス建設に伴う発掘調査を再開したことが特筆できる。

整理・報告は、引き続き普通寺病院統合事業に伴う旧練兵場遺跡の整理を2班体制で実施した。

平成18年度から実施してきた鹿伏・中所遺跡の整理作業が終了し、平成23年度に最後の報告書を刊行するのみとなった。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間
道路課	太田上町志度線建設	多肥北原西遺跡	高松市多肥上町	5,318	4月～7月 12月～3月
		太田原高州遺跡	高松市太田上町	2,080	8月～11月
国土交通省	国道11号大内白鳥バイパス建設	田中遺跡	東かがわ市白鳥	2,655	6月～10月
普通寺病院	普通寺病院統合	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	3,480	4月～3月
合計				13,533	

第5表 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
多肥北原西遺跡	古墳時代から平安時代にかけての集落跡。 平安時代の地震跡。	古墳時代の竪穴住居跡。 奈良時代の溝状遺構。 平安時代の掘立柱建物跡、地震による噴礫。 土師器、須恵器、縁軸陶器、瓦。
太田原高州遺跡	弥生時代の河川跡。 古墳時代の集落跡。	弥生時代の河川跡。 古墳時代の竪穴住居跡。 弥生土器、土師器、須恵器。
田中遺跡	縄文時代の河川跡。 弥生時代の集落跡。 古墳の周濠跡。	縄文時代の河川跡。 弥生時代の竪穴住居跡。 古墳の周濠跡。 縄文土器、弥生土器、石器・石製品、土師器、 須恵器、琴柱形石製品。

旧練兵場遺跡	弥生時代から中世にかけての集落跡。 奈良時代の用水路跡。	弥生時代から古墳時代にかけての堅穴住居跡群、掘立柱建物跡群。 奈良時代から中世にかけての掘立柱建物跡、溝状遺構。 弥生土器、石器・石製品、銅鏡、銅鏡、ガラス玉、土師器、須恵器、獸骨。
--------	---------------------------------	---

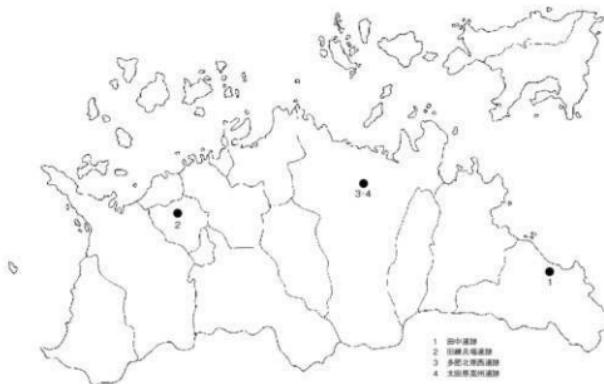
第6表 遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
普通寺病院（国立病院機構本部）	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	4月～3月
高校教育課	鹿伏・中所遺跡	木田郡三木町	4月～3月
国土交通省	別宮北遺跡・別宮北古墳群	坂出市西庄町	平成19年度

第7表 整理・報告遺跡一覧

書名	
一般国道11号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 別宮北遺跡・別宮北古墳群	

第8表 刊行報告書一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図

## たなかいせき 田中遺跡

遺跡は、二級河川湊川の右岸、扇状地形の扇端部に立地する。遺跡西端には、湊川の河床低下に伴う比高差1m程度の段丘崖が南北走り、遺跡は段丘上に展開する。また、弥生時代後期の土器が出土した周知の埋蔵文化財包蔵地である城泉遺跡が、東に隣接する。試掘調査により遺構が確認された2,655m<sup>2</sup>を対象に、発掘調査を実施した。

調査地は、宅地や耕作地として利用されており、それら地割りに沿って、西より6調査区に区分して調査を実施した。調査の結果、対象地中央部には旧流路(SR01)が北東方向へ流下し、調査区東端(6区東半)と西端(1~2区西半)に、旧流路と段丘崖によって縁取られた微高地が存在することが明らかとなった。

西微高地では、弥生時代後期後半~終末期頃の竪穴住居3棟(SH01~03)と7世紀前葉頃の竪穴住居2棟(SH04・05)、8世紀頃に開削され、12世紀後半頃に埋没した大型水路1条(SD01)、室町時代の素掘りの井戸1基(SE01)を確認した。SD01では、流路東岸辺で開削後比較的早い段階に構築された、人頭大程度の自然礫による護岸施設を検出している。

中央部の旧流路(SR01)は、弥生時代後期前葉には埋没していることが確認された。流路幅約67mの規模があり、当時の湊川主流路の一部と考えられる。土器やサスカイト製石器などが出土したが、遺物量は乏しい。流路埋没後には、上面より掘立柱建物1棟(SB01)と数条の溝状遺構(SD02・03)が開削されている。遺構内から時期を特定できる遺物の出土に恵まれなかつたが、周辺の包含層からは縁釉陶器や布目瓦片など古代の遺物がやや多量に出土しており、当該期の遺構の可能性が考えられる。湊川左岸の丘陵裾部に所在する、古代寺院の白鳥廃寺との関連を考える上で興味深い資料といえる。

東端微高地では、いずれも北東方向へ流下する時期の異なる数条の溝状遺構群を検出した。また、これら溝状遺構のベース層となる黄褐色シルト層からは、縄文時代晩期の遺物が出土している。注目すべき遺物として、平安時代の溝状遺構(SD05)より、滑石製琴柱形石製品2点が出土した。さぬき市羽立峠西古墳に次いで県下2例目の出土である。周辺に古墳が所在した可能性が想定され、溝状遺構(SD04)が古墳周溝となる可能性も想定される。

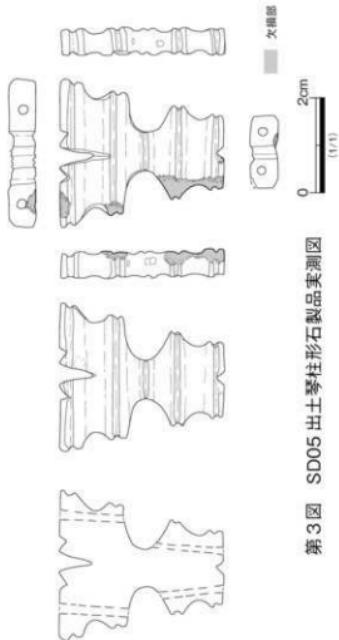
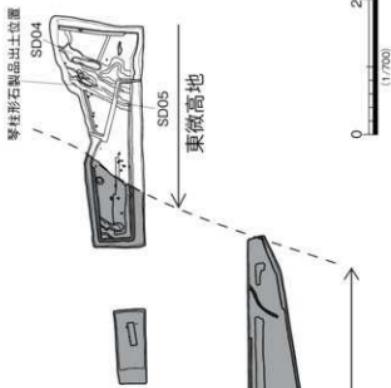
なお、今回出土した琴柱形石製品は、いわゆる恵解山型と官山型の両方の特徴をあわせもった形態を呈しており、両タイプの製作集団の系譜を考える上で重要な資料となろう。



第2図 遺跡位置図(1/25,000)

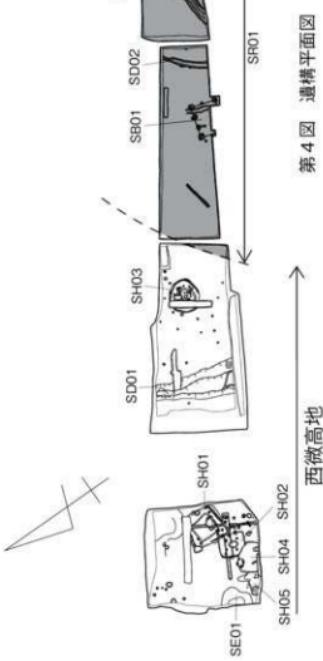


写真1 SD01護岸施設



第3図 SD05出土琴柱形石製品実測図

第4図 造構平面図



## きゅうれんべいじょう いせき 旧練兵場遺跡

今年度の調査対象地は、国立病院機構普通寺病院内の西側中央付近に位置し、調査面積は3,480m<sup>2</sup>である。調査地は扇状地扇端に位置する。巨視的には長軸0.7・短軸0.4kmほどの大きさの微高地の存在が推定され、ここに遺跡が立地しているものと考えられる。微高地は、微視的には旧中州と考えられる複数の砂礫層の盛り上がりとその間を埋める砂・シルト層を基盤とするけれども、遺跡内にはきわめて短期間に流れた河川が埋め残されたと考えられる凹地が大きく蛇行しながら連続している。凹地は幅10・深さ0.6mほどの規模であるが、この埋積過程が遺跡の内容に影響を与えていたことがわかつた。

凹地の最下層の堆積層には、弥生時代前期の遺物を包含するところがある。その後、弥生時代中期に概ね埋積が終了するけれども、埋積の進捗に差があり、建物などが建築されるなど土地利用がなされるようになる部分と凹地のまま埋め残されて積極的な土地利用がなされない部分に分かれるようである。古墳時代後期の溝状遺構には凹地の西岸に沿うものがあり、この時期にも凹地が土地利用に影響を与えていることが窺われるが、古代にはほぼ平坦化したと見られる。なお、凹地を埋める堆積層のなかには、弥生時代後期を中心とする摩滅する土器細片を多量に含むものがあり、人為的に造成がなされていると観察される部分もある。施工は古代と考えられる。これらの層の環境や土地利用を検討するために、弥生時代前期から中期の堆積層を対象に花粉分析とプラントオパール分析を実施したが、良好なデータは得られなかった。

次に検出した遺構・遺物について概要を記す。

弥生時代中期の遺構には掘立柱建物跡、柱穴跡がある。また、凹地の埋積土中から人型土製品、分銅型土製品、底部穿孔壺といった祭祀関連遺物が出土している。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構として多数の竪穴住居跡を検出している。また、複数の竪穴住居跡が集中する区域内における擾乱坑から完形の小型仿製鏡が出土したほか、打ち欠いて皿状にした甕に獸骨を置いて埋納した弥生時代後期初めの柱穴を検出している。銅鏡については専門家の教示を仰いだほか、ほかに出土した銅鏡片や銅鑑とともに保存処理を委託した。獸骨についても専門家の鑑定を仰いだが、骨の変形のため確定できなかった。

古墳時代後期は、多数の竪穴住居跡のほか溝状遺構も多数検出している。このうち溝に接する



第5図 遺跡位置図 (1/25,000)

ように掘られた楕円形（長軸 8.2・短軸 5.0・深さ 0.8 m）の落ち込み（8 区 SX02）から完形もしくは完形に近い土器が多量に出土している。

古代の遺構には掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑等がある。溝状遺構の中には周辺に広がる条里地割の坪界線に合致したり、方向が合致するものがある。この中には溝底部に著しい起伏を持ち、溝状の土坑が連続するような様相を呈する特異なものがある。平城京の道路側溝などに類例が求められる。

古代の集落については、調査対象地北より中央部の調査区での様相をもとに記述する。この調査区では凹地が埋め残されており、古墳時代から 8 世紀以前には微高地から凹地への傾斜部に堅穴住居跡が検出されたほかは、多くの溝状遺構が掘られていた。

8 世紀代に凹地を埋めて平坦化しており、4 棟の掘立柱建物や土師器焼成坑 1 基等を検出している。掘立柱建物のうち 3 棟の主軸方位は概ね揃っているが、周辺に拡がる条里地割の方向とは異なる。2 棟は同規格の総柱建物である。これら 3 棟より後出する 9 世紀前後の建物は、条里地割の方向と一致している。

土師器焼成坑は、 $1.6 \times 1.2$  m ほどの卵形の平面形、深さ 7 cm の規模である。土師器の壊・蓋・高坏の破損品、焼土、炭化物を包含する。土師器表面が赤く塗彩されている点が注目される。時期は 8 世紀後半から 9 世紀前葉のものと推定される。なお、近辺から同種の遺構の可能性のあるもの、廃棄土坑と思われるものを検出している。

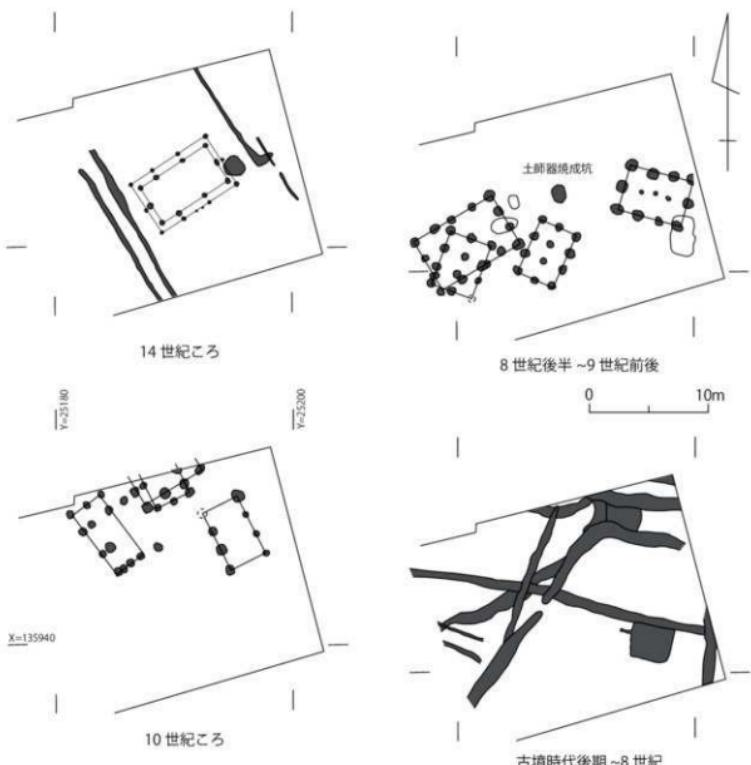
その後、10 世紀前後と推定される掘立柱建物数棟が建てられている。このうちの柱穴埋土から越州窯系青磁水注片が出土したほか、近辺から綠釉陶器椀片も数点出土しており、有力な居住者像が想定できる。

14 世紀ころの四面に庇をもつ掘立柱建物と道路遺構、区画溝等を検出している。また、南西に 40 m ほどの地点には同時期の石組井戸（直径 3、深さ 3 m、石組内径上部 1.4、下部 0.7 m）も検出している。当該地は中世の史料や絵図資料から普通寺の寺領であったことが知られており、関連が注目される。

このほか、平成 21 年度に調査された弥生時代の人骨について関連調査も実施している。



写真 2 調査地遠景（西北から）



第6図 遺構変遷図



写真3 古代の遺構掘削状況



写真4 掘立柱建物跡  
(保護帽とひさし付保護帽の2棟)



第7図 遺構配置図（西半部）



第8図 遺構配置図（東半部）



写真5 調査風景



写真6 現地説明会風景

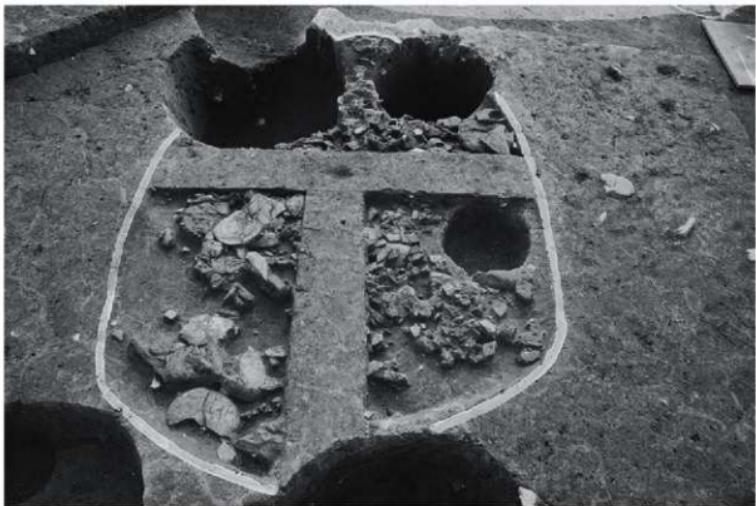


写真7 土師器焼成坑



写真8 凹地掘削状況



写真9 破碎した甕にのせられた獸骨



写真10 8区 SX02 遺物出土状況



写真11 中世の石組井戸

## 多肥北原西遺跡

4・5区では、主として平安時代から中世にかけての柱穴や自然河川などを検出した。掘立柱建物跡などは復元できなかったが、10世紀から13世紀ごろにかけての、多くの土器などが出土している。特筆すべきものとしては、遺跡全体でいくつか検出した、噴礫であろう。特に5区で検出した噴礫は、10世紀代の柱穴などを破壊しており、10世紀以降に大規模な地震が高松平野南部を襲ったことが見て取れる。

さらに、この噴礫上に12世紀代の遺物を含む大きな湿地状の遺構が認められることから、この地震は10世紀から12世紀の間に起こったことが判明した。噴礫の規模からみて、マグニチュード7もしくは8程度の大規模なもので、これだけのエネルギーを持つ震源は長尾断層以外には考えられない。したがって、平安時代末期、高松平野を襲った大地震は長尾断層が原因であることがわかり、今後の地震予知にも大きな資料を提供できた意義は大きい。現在、噴礫の構成物質等を香川大学工学部長谷川研究室が詳細に調査しており、その結果でより多くのことがらがわかるであろう。

6区とその南側の10区、さらに西側の8区では、古墳時代後期の竪穴住居跡を5棟検出した。いずれも6世紀末頃の須恵器を包含しており、該期に小規模な集落が展開していたことが判明した。同様の状況は、東側の多肥北原遺跡や多肥平塚遺跡においても、6～7世紀ごろの5棟前後の竪穴住居跡からなる小規模な集



第9図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真12 検出した噴礫の断面



写真13 検出した竪穴住居跡

落が点在して検出されており、高松平野南部では、古墳時代末期に竪穴住居跡5棟前後を一つのユニットとする小規模な集落が地形的に安定した場所に展開するという空間的形態がおぼろげながら見えてきた。

7区とその南側の8区、さらに西側の11区では、奈良時代から平安時代終わりごろにかけての溝状遺構を検出した。そのほとんどが調査区を横断するようにほぼ現在の地割に平行して東流しており、その間隔は4mほどで並行しており、可能性として道路の側溝が指摘できる。ただし、直接的な物証ではなく、あくまでも可能性としての指摘としたい。

これらの溝状遺構からは、10世紀から11世紀ごろの大量の須恵器や土師器のほか、鉄滓や椀状ガラス滓なども出土しており、小規模な鍛冶遺構の存在をうかがわせる。また、平瓦や丸瓦のほか、軒丸瓦も2種類出土した。八葉複弁蓮華文軒丸瓦と十二葉細弁蓮華文軒丸瓦であり、おおむね平安時代後期頃の所産と推測される。また、県内では珍しく、鬼瓦の破片も出土している。部分であるため、全体像ははっきりしないが、目の周囲の巻き毛などが明瞭に表現されており、躍動感に満ちている。裏面はヘラ削りによる痕跡が顕著で、丁寧に仕上げている。

調査箇所は、従前より多肥廃寺の推定地の北方にあたり、今回の出土遺物および遺構からみると、周辺に寺院跡が所在する可能性は非常に高く、検出した溝状遺構などは寺域と関連づけられる可能性も考えられる。

今回の調査により、高松平野南部では、古墳時代末期には、数棟の竪穴住居跡からなる小規模な集落が安定した微高地に点在した様相がみてとれ、また、平安時代後期から鎌倉時代初頭にかけては、現在の地割にはほぼ合致する方向で、溝状遺構による土地区画が行われていたことがわかった。また、出土遺物から周辺に古代寺院の多肥廃寺の所在する可能性が高くなり、この地域の古代の様相がより明らかになったといえよう。



写真14 7区で検出した並行する溝状遺構



写真15 11区で検出した溝状遺構

## おおたはらたかすいせき 太田原高州遺跡

調査対象地のうち、最も西側の1区では、弥生時代～古墳時代にかけて埋没した自然河川と古墳時代末期の竪穴住居跡、さらに古代の溝状遺構や掘立柱建物跡を検出した。

自然河川は調査区を南西から北東に向かって縱断し、幅約15m、最深部で現地表下約1mを測る。埋土は黒褐色を呈するシルトで、最下層から弥生時代後期前半ごろの甕の口縁部などが出土している。数量的には多くないため、周囲には集落等の所在をうかがうことはできない。最上層からは、6世紀末ごろの須恵器などが出土しており、このころには埋没過程による低湿地化をしていたと考えられる。自然河川の東側は、ベースが礫層であり、遺構の分布は希薄である。

竪穴住居跡は、自然河川の西岸付近で2棟検出した。自然河川の西岸が埋没した時期にあたり、埋土からは6世紀末ごろの須恵器が出土している。北側のSH01は一辺5mの隅丸方形を呈するもので、4基の主柱穴を持つ。北側に突出した赤褐色を呈する被熱部が認められることから、造り付けのカマドを有していたことがうかがえる。南側のSH02は、大部分が調査区外にあたるため、全体の1/4程度しか調査はできなかった。確認した範囲内では、主柱穴とおぼしき柱穴を2基検出していることから、全体で4基の主柱穴を有していたことがうかがえる。カマドの有無については不明。埋土からは、6世紀末ごろの須恵器杯身と杯蓋のセットが出土



第10図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真16 1区で検出した竪穴住居跡



写真17 1区西南隅の竪穴住居跡

しており、おおむねSH01と同じ時期に機能していたことがわかる。自然河川の西岸部分で竪穴住居跡2棟を検出していることから、周囲に小規模な集落が所在していたことがうかがえる。

古代になると、自然河川は完全に埋没し、現在の地割に平行する溝状遺構が刻まれる。幅約

0.5m、深さ0.3mを測り、拳大から小児の頭程度の大きさ自然礫を内部に並べている。出土遺物は須恵器や土師器の破片ばかりであり、おおむね10世紀を中心とするものが多い。溝状造構の北東部では、1間×2間の小規模な掘立柱建物跡を1棟検出している。主軸方位はほぼ現在の地割に合致し、溝状造構と同じである。前述の竪穴住居跡の主軸方位がほぼ南北方向であることから、古代に周辺の土地区画が行われたことがわかる。

1区の東側の2・3区では、おおむね西半分は1区から続く礫層がベースとなっており、造構の分布は希薄である。東半分は、既存建物の基礎によって造構面が破壊されている部分が相当あり、造構の把握に苦労した。

東半分では、竪穴住居跡や溝状造構を検出した。竪穴住居跡は、6棟を確認している。そのうち、ほとんどが既存建物の基礎により一部もしくは半分以上が破壊されているため、詳細は不明である。最も遺存状況のよいSH01は、調査区南端にあたり、一部が調査区外へ延びる。

一辺5m程度の隅丸方形を呈し、4基の主柱穴を持つ。埋土からは6世紀末ごろの須恵器や土師器が出土している。そのほかの竪穴住居跡もおおむね同規模のものと推定され、主軸はいずれもほぼ南北方向を向いている。竪穴住居跡は、黄褐色シルトの安定したベースに立地しており、礫層がベースの部分では検出されていない。このことから、古墳時代の終わりごろには、安定した地盤の部分に小規模な集落が展開していたことがうかがえる。

今回の調査では、弥生時代から古代までの造構が確認されたが、特に古墳時代末期ごろには高松平野南部に数棟の竪穴住居跡からなる小規模な集落が点在したことがうかがえる。これは、多肥松林遺跡や多肥平塚遺跡、さらに多肥北原遺跡や多肥北原西遺跡などでも確認されており、今後の高松平野の様相を考える上で貴重な資料となるであろう。



写真18 2区で検出した竪穴住居跡



写真19 2区全景  
(中央左側に竪穴住居跡が見える)



写真20 3区で検出した竪穴住居跡  
(攪乱によって破壊されている)

## 2. 普及・啓発事業

### 1 展示

#### (1) 香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～8月31日、 11月4日～3月31日
続・発掘へんろ～四国の弥生時代～	第1展示室	9月11日～10月24日
讃岐国府跡を探る～平成21年度の調査～	第2展示室	4月1日～5月7日
塩づくりのはじまり	第2展示室	5月13日～7月9日
夏休み子どもミュージアム あ、古墳へ行ってみよう。	第2展示室	7月17日～9月12日
讃岐国府をとりまく寺々	第2展示室	9月18日～11月19日
発掘された日本列島2010協賛展示 木のある暮らし	第2展示室	11月27日～12月23日
讃岐国府跡を探る～平成22年度の調査～	第2展示室	1月14日～3月31日

第9表 展示一覧

大人	子ども	計	団体									合計	
			団体数				構成員数						
			一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	
2,218	454	2,672	15	0	10	1	26	551	0	444	25	1,020	3,692

第10表 入館者数一覧

#### (2) 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数
讃岐国府跡を探る ～平成21年度の調査～	高松市讃岐国分寺跡資料館	6月29日～8月15日	506
第7次さかいで古代探検隊 国府をめぐる新発見	坂出市郷土資料館	11月4日～11月28日	860
讃岐国府跡を探る ～平成21年度の調査～	東かがわ市歴史民俗資料館	12月18日～2月13日	123
シリーズ学校の遺跡3～石田高校校庭内遺跡・津森位遺跡～ 古代住居と校舎のコントラスト	香川県立文書館	1月18日～3月13日	1,578
四国地区埋蔵文化財センター巡回展 続・発掘へんろ ～四国の弥生時代～	松山市考古館	4月29日～6月27日	3,012
	高知県埋蔵文化財センター	7月5日～8月31日	1,558
	徳島県立埋蔵文化財総合センター	11月2日～12月26日	1,047
	大阪府立弥生文化博物館	1月22日～3月21日	6,798
合計			15,482

第11表 センター外展示一覧

## 2 現地説明会・地元説明会

内容		実施日	対象	見学者数
1	多肥北原西遺跡現地説明会	平成 22 年 6 月 12 日	一般	120
2	旧練兵場遺跡現地説明会	平成 22 年 7 月 3 日	一般	80
3	田中遺跡現地説明会	平成 22 年 9 月 19 日	一般	50
4	讃岐国府跡現地説明会	平成 22 年 1 月 23 日	一般	200
5	旧練兵場遺跡現地説明会	平成 22 年 1 月 29 日	一般	150
合計				600

第 12 表 現地説明会・地元説明会一覧

## 3 講師の派遣

### (1) 体験講座など

依頼者		実施日	場所	内容	対象	人数
1	亀阜地区民生委員児童委員協議会	6 月 13 日	亀阜小学校	勾玉づくり	小学生	37
2	土庄町教育委員会	6 月 26 日	土庄町公民館	ガラス玉づくり	親子	38
3	香南小学校 6 年団	7 月 10 日	しまる館	勾玉づくり	親子	60
4	高松市讃岐国分寺跡資料館	7 月 23 日	高松市讃岐国分寺跡資料館	土器づくり	小学生	16
5	香南歴史民俗郷土館	7 月 24 日	高松市香南歴史民俗郷土館	勾玉づくり	小学生	23
6	木太コミュニティセンター	7 月 30 日	木太コミュニティセンター	勾玉づくり	小学生	18
7	香南歴史民俗郷土館	8 月 7 日	高松市香南歴史民俗郷土館	土笛づくり	小学生	24
8	高松市讃岐国分寺跡資料館	8 月 19 日	高松市讃岐国分寺跡資料館	土器焼き	小学生	16
9	高松市牟礼公民館	8 月 23 日	高松市牟礼公民館	勾玉づくり	小学生	20
10	坂出市西庄文化センター	8 月 30 日	坂出市西庄文化センター	分銅形土製品づくり	小学生	15
11	宇多津サポートママモコモコ	9 月 27 日	宇多津町福祉センター	ガラス玉づくり	一般	10
12	コーパ丸亀運営委員会	11 月 15・17 日	コーパ飯山	ガラス玉づくり	一般	60
13	坂出市立加茂小学校 PTA	11 月 27 日	坂出市加茂小学校	勾玉づくり	親子	43
14	コーパ弦打運営委員会 コーパ小豆島運営委員会	11 月 29 日	コーパ香西	ガラス玉づくり	一般	27
15		1 月 25 日	イマージュセンター	ガラス玉づくり	一般	16
合計						423

第 13 表 体験講座への講師派遣一覧

(2) 学校

学校名		実施日	内容	対象	人数
1	觀音寺市立常磐小学校	7月7日	勾玉づくり	6年生	70
2	高松市立前田小学校	7月12日	土器づくり	6年生	41
3	高松市立前田小学校	10月21日	土器焼き	6年生	41
		合計			152

第14表 学校への講師派遣一覧

(3) その他

依頼者		実施日	内容
1	讃岐国分寺跡資料館友の会	4月23日	講演
2	府中地区社会福祉協議会	5月15日	講演
3	香川県立ミュージアム	5月16日	遺跡案内
4	綾川町文化財保護協会	5月20日	講演
5	香川県文化財保護協会	5月27日	講演
6	宇多津町文化財保護協会	6月7日	講演
7	勝貫城跡保存会	8月7日	講演
8	香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課 (香川県民カレッジ)	8月31日	講演
9	香川県宅地建物取引業協会 坂出支部	9月10日	講演
10	飯山北地区コミュニティ推進協議会	9月11日	講演
11	香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課 (ふるさと学習社会人講師養成講座)	10月31日、 11月6・7・14日、 12月11・12・19・25日	講演など
12	坂出市府中老人クラブ連合会	11月8日	講演
13	三豊市財田町公民館	11月11日	遺跡案内
14	徳島県埋蔵文化財センター	11月14日	講演
15	三木町文化財保護協会	11月27日	講演
16	宇多津町	12月7日	調査指導
17	大阪市立大学	12月18～20日	研究発表等
18	大阪府立弥生文化博物館	2月5日	講演
19	三豊市文化財保護協会	2月23日	講演

第15表 講演等への講師派遣一覧

#### 4 坂出市立府中小学校との連携授業（よろこび学習）

回	実施日	場所	内容	対象	人数
1	5月8日	埋蔵文化財センター	施設見学	6年生	54
2	6月4日	讃岐国府跡周辺	遺跡見学	6年生	54
3	6月11日	府中小学校	授業（旧石器～縄文）	6年生	54
4	6月18日	府中小学校、新宮古墳	授業（弥生～古墳）	6年生	54
5	7月9日	府中小学校	土器づくり	6年生	54
6	10月22日	府中小学校	土器焼き	6年生	54
7	10月29日	府中小学校	土器炊飯	6年生	54
合計					378

第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧

#### 5 夏休み子どもミュージアム

7月17日～9月12日に主に子どもを対象とした夏休み子どもミュージアムを行った。

実施日	タイトル	内容	人数
7月17日～9月12日	あ、古墳へ行ってみよう。	展示	659
7月17日～8月31日	遺跡の自由研究サポートデスク	自由研究のアドバイス	—
7月27日	讃岐国府ジュニアミステリーハンター	讃岐国府跡の探索	9
8月3日	あ、古墳を見てみよう。	古墳の見学	21
8月9日	あ、古代をたいけんしてみよう。	分鏡形ペンダントづくり、ガラス玉づくり	9
8月18日	あ、発掘してみよう。	発掘体験	15

第17表 夏休み子どもミュージアム実施事業一覧

#### 6 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を4回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数
1	6月20日	塙づくりのはじまり	乗松真也	22
2	9月11日	大集落の時代－旧練兵場遺跡の解明－	信里芳紀	49
3	10月2日	菅原道真が書き残した讃岐国府 －漢詩を考古学する－	大山真充	58
4	10月23日	綾川流域の弥生時代－坂出市東部の遺跡から－	乗松真也	40
5	2月12日	讃岐国府の構造を考える －他地域の国府跡を参考に－	西村尋文	49
6	2月26日	讃岐国府跡周辺の景観－坂出市加茂町を中心に－	宮崎哲治	49
合計				267

第18表 考古学講座一覧

#### 7 文化ボランティア活動

文化ボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助等を行った。10名が登録し、21回、延べ42名が活動に参加した。

## 8 四国新聞への連載

四国新聞に「古からのメッセージ さぬき歴史教室⑧」として、計49回の連載を行った。讃岐國府跡探索事業に関連し、「道真の足跡を追う」(12回)、「讃岐國府推定地の調査」(12回)、「古代の寺を訪ねて」(14回)、「綾川流域の遺跡をゆく」(11回)で構成した。

## 9 資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館	出版社・新聞社	個人・他	合計
遺物	5	0	9	0	15	29
写真・パネル	1	0	7	1	2	11
レプリカ・模型	1	0	0	0	0	1
合計	7	0	16	1	17	41

第19表 資料貸出・利用一覧（数字は件数）

## 10 職場体験学習

学校名	期間	内容	人数
1 高松市立塩江中学校	6月28日～30日	職場体験学習	3
2 高松市立香東中学校	9月27日～10月1日	職場体験学習	3
3 丸亀市立綾歌中学校	11月16日～18日	職場体験学習	5
4 坂出市立坂出中学校	11月18日～19日	職場体験学習	3
5 香川県立聾学校	11月22日	職場体験学習	1
6 坂出市立白峰中学校	1月18日～20日	職場体験学習	3
合計			18

第20表 職場体験学習一覧

## 11 刊行物

- (1)『香川県埋蔵文化財センター年報 平成21年度』
- (2)『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅷ』
  - ・西岡達哉「資料紹介 讃岐國府跡の出土遺物」
  - ・片桐孝浩・佐藤竜馬・松本和彦・上野進（四国村落遺跡研究会）「討論 港町の原像—中世野原と讃岐の港町—」
  - ・佐藤竜馬「香川県庁舎南庭の基礎的考察」
- (3)『いにしえの讃岐』 66～69号

## 12 ホームページ

ホームページ (<http://www.pref.kagawa.lg.jp.maibun/>) の更新を随時行った。

トップページページビュー数 38,142

### 3. 緊急雇用創出基金事業

#### 学校及び地域等における出土品の活用推進事業

「学校及び地域等における出土品の活用推進事業」を直接雇用の形態により、平成 22 年 6 月 2 日～平成 23 年 3 月 31 日の期間、9 名の臨時職員を雇用して実施した。

作業内容としては、埋蔵文化財センターが保管している出土品のうち、昭和 52 年度から昭和 56 年度まで香川県教育委員会が発掘調査を行った讃岐国府跡の出土品の分類、接合、復元、実測、製図を行った。併せて讃岐国府跡関係の各種データ整理、パネル作成等を行い、学校や地域への貸し出し、各種展示会への出展に対応できるようにした。そして現在埋蔵文化財センターで実施している「讃岐国府跡探索事業」の地域への普及啓発にも活用できるようにした。



写真 21 出土品の接合作業



写真 22 出土品の実測作業

#### 4. 讀岐国府跡探索事業

香川県は、平成 20 年 10 月に平成 24 年度までの「香川県文化芸術振興計画」を策定した。

この中で、「讀岐国府跡探索事業」は、「香川の特色ある文化芸術活動を活かした地域づくり」を目的とした「地域文化活性化事業」として、戦略的重點事業に位置付けられた。

この事業の趣旨は、ボランティアとともに地名調査、地形調査、発掘調査等を行うことにより、讀岐国府の所在地を特定して遺跡の実態を解明するとともに、遺跡を活用して地域の活性化を図ろうとすることである。

香川県埋蔵文化財センターでは、平成 21 年度から 4 カ年計画で同事業を開始した。

事業は、今年度も公募したボランティア調査員を主力に実施している。上半期は地形調査及び地名調査等を、坂出市加茂町をフィールドとして行った。埋没した旧河道や遺構が展開するのに適した微高地の存在などを確認し、城や寺社、居住地（屋敷、町）の存在をうかがわせるような地名の存在を確認するなどの成果を得た。

下半期は発掘調査を坂出市府中町本村地区で実施し、地割りの基準線の可能性を持つ大規模な溝状遺構や、類例のない石列状遺構、縄文陶器や刻畫土器など、国庁を含めた役所群の建物が近辺に存在する可能性が想定される成果を得た。

また、讀岐国府跡をはじめとする周辺の遺跡を活用した普及・広報活動等については、それぞれの調査の進捗に合わせて随時実施した。以下に実績を示す。

##### ①ボランティア活動

登録者数 24 人

活動参加延べ人数 438 人

##### ②地域との交流

説明会・学習会	5 月 15 日、11 月 11 日	170 人
---------	--------------------	-------

展示「水のフェスティバル in 府中湖～府中の宝・国府をさがして～」

10 月 3 日 11,000 人

展示「国府をめぐる新発見」 11 月 4 ~ 28 日 860 人

##### ③情報発信

ホームページへの記事掲載 52 回

情報誌「いにしえの讀岐」への記事掲載 3 回

新聞への連載記事掲載 53 回

地元ケーブルテレビガイドブックへの記事掲載 6 回

「かがわ県民カレッジ」の講演 1 回

④関連行事

まち歩き「古代の県庁「国府」はどこ？2—遺跡の専門家と歩く1,300年前—」	5月23日・6月6日・11月28日	27人
イベント「讃岐国府ジュニアミステリーハンター」	7月27日	9人
展示「讃岐国府を探る2—平成22年度の調査—」		
1月11日～5月6日 年度末まで 596人（会期末まで 1166人）		
展示「讃岐国府をとりまく寺々」	9月18日～11月19日	851人
出張展示「讃岐国府を探る」高松市讃岐国分寺跡資料館		
6月29日～8月15日		506人
出張展示「讃岐国府を探る」東かがわ市歴史民俗資料館		
12月18日～2月13日		123人
県庁ギャラリー展「讃岐国府ミステリーハンター奮闘記」		
2月21～25日		不詳
考古学講座「菅原道真が書き残した讃岐国府」	10月2日	58人
考古学講座「讃岐国府の構造を考える」	2月12日	49人
考古学講座「讃岐国府跡周辺の環境」	2月26日	49人
発掘調査現地説明会	1月23日	200人
報告会「古代の県庁・讃岐国府を探る」	3月12日	73人
⑤刊行物		
冊子「讃岐国府の時代」	1,200部	
讃岐国府探索マップ	10,000部	

### III 讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告

香川県埋蔵文化財センターでは、平成21年度より4ヵ年の計画で讃岐国府跡探索事業に着手している。2年目にあたる平成22年度は、上半期に坂出市加茂町を主なフィールドとした地形・地名等の調査を、下半期に発掘調査を坂出市府中町本村地区において実施した。

#### 1. 地形調査

綾川下流域の平野の微地形・水利・地割等の情報収集と分析を目的とした地形調査は、加茂町を主体として一部の調査について神谷町と高屋町も取り込んで実施した。具体的な作業としては、明治前期地籍図記載の地目・地位等級の分析、水利調査、空中写真判読、水田一筆ごとの標高の測量、現地踏査がそれにあたる。

標高の測量に基づく等高線図の作成の結果、現在の綾川と五色台山塊の間に複数の旧河道の痕跡と埋没している微高地の存在を推定することができた。

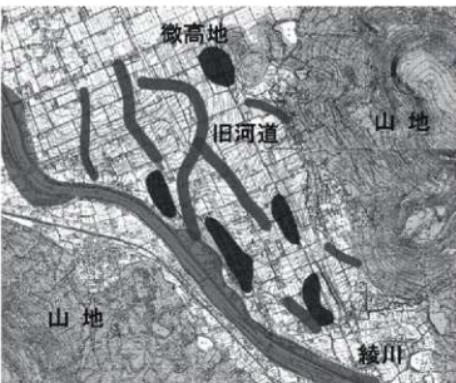
旧河道は五色台山塊の麓の2条を除いて、すべて綾川の旧河道であった可能性が高い。いずれも上面には周辺一帯に残る方格地割で覆われているが、平野のほぼ中央で現在の綾川から大きく弧を描くように北方へ続く旧河道は、方格地割のラインを崩している。これは近世以降に幾度か起こった、綾川の堤防の決壊により加茂町一体が浸水した際に、かつての河道部を水が強く流れたためと考えられる。

また、当初は、五色台山塊の麓を方格地割と一致した方向で直線的に流下する規模の大きな用水路を、旧河道を人工的に整えた可能性があると考えていたが、これは方格地割の溝の一つに何らかの理由で水が集中したために開折・下刻されて拡幅し運河状を呈するに至ったものと思われる。

また、現状ではほとんど平坦に見える当該地であるが、複数の微高地が埋没していることも推定できた。集落などを中心とした遺跡が存在する可能性が高い場所といえる。平野部の水利



写真23 標高測量風景

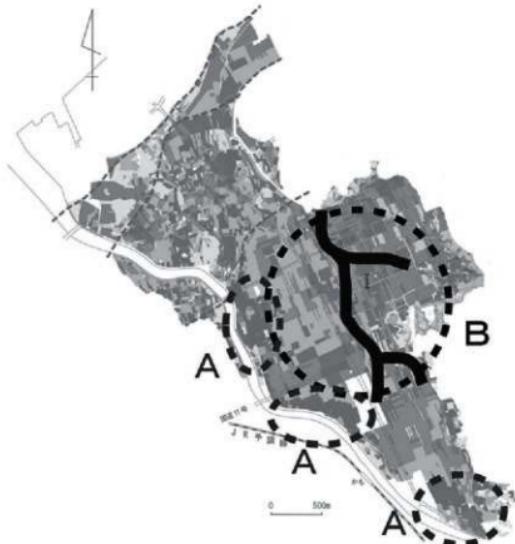


第11図 加茂町旧地形復元図

灌漑は、複雑に入り組んでいる部分があり、土地開発の時間差を示唆している可能性がある。

地目・地位等級の分析は、昨年度実施した加茂町・林田町に今年度の神谷町・高屋町（一部）を加えることができた。これによって、文書の欠落していた加茂町の一部を除いた綾川右岸の平野部については色塗り図の作成と分析を終えたことになる。

綾川河道の屈曲部外側に存在する上畠のまとまり（第12図 A）や、平野中央部



第12図 地目・地位等級分析図（綾川右岸部分）

を蛇行するように連続する下田・下々田の連続（同B）が浮かび上がってきた。前者は綾川の氾濫原を、後者は埋没している旧河道の存在を示唆するものとして注目できる。とりわけ、下田・下々田の連続は、等高線図から推定した旧河道と合致する部分もあり、この分析手法のある程度の有用性を確認することができたと言える。今後は、他の分析・調査結果とのクロスチェックで、詳細を明らかにする検証作業を進めなければならない。

## 2. 地名調査

歴史的な地名・伝承などを採取することから、地域の歴史を考察することを目的とした地名調査も、加茂町を主なフィールドとして実施した。具体的には、地域住民から小字名・通称地名・伝承などの情報を得る聞き取り調査を行った。それに合わせて、遺物の分布調査も実施している。なお、文献資料の調査も同時に行う予定であったが、史料の掘り出しができず実施できなかった。

地名等の情報の消失はかなり進んでおり、聞き取り調査は苦労を極めたが、地元の歴史研究家の協力によって、ほぼ加茂町全体の地名を採取することができた。加茂町内では概ね1町方格(108m四方)単位で地名が残っていることが明らかになった。採取した地名は、①地形・地勢(ガラ、クボ、ゴロ、タニなど)、②建物や施設等、③土地の規模(タン、チョウ、シャク、ツボ)に由来するものが含まれていると推測できる。昨年度の府中町での「セイドウ」「インヤ(ニヤ)

ク」「チョウツギ」といった国府周辺の施設を示唆するような地名は採取できなかった。しかし、加茂町においても建物や施設等に由来すると思われるものの中に、蔵（クラノモト、クラノウラ）、門（ダイモン、ウラモン）、堀（オオゼキ、ウワセキ）、宮（ミヤニシ、カミノマエ、ミヤノウラ）、寺（テラマエ）、屋敷（ツタヤシキ、マサゴヤシキ）、町（ニノマチ、ツジノマチ、アカマチ）のように具体的な建物や施設を示唆するようなものが含まれていることは、国府を構成する施設の存在をうかがわせるものとして注目できる。

ただし、現在に伝わる地名は、歴史という長い時間の中で変容、追加されたものの集積であり、その多くは近世以降に呼ばれたものが多いと思われる。文献資料の調査の進展と、両者の検証作業が今後の課題といえる。



第13図 加茂町の地名分布図

### 3. 発掘調査

事業2年目となる発掘調査は、国庁の周囲を囲む施設の検出目的に、周知の埋蔵文化財包蔵地である讃岐国府跡内で発掘調査を実施した。昨年度の調査地点から東方へ約120mの地点にあたる。

調査の結果、奈良時代から鎌倉時代にかけて機能した溝状遺構7条と石列状遺構1基の遺構と、旧石器時代から江戸時代にわたる遺物を検出した。

奈良時代と平安時代に掘られた溝状遺構は幅約4m、深さ約1m以上と規模の大きなもので、現在も周囲に残る地割りの方向と合致している。南方位に延伸すると「讃岐国府跡」碑の東側の調査で

検出した溝状遺構に繋がる可能性があり、推定南海道とされる市道とも直交している。当該地周辺を方格に区画した基準線となる可能性が高い。

石列状遺構は、奈良時代に掘られた溝状遺構が、分厚い粗砂によってほぼ埋没した段階（10世紀代）に、拳大の礫を敷き並べた上に一辺約50cmの塊石3石を溝状遺構に直交するように並べたものである。中央の石は一段低く設置しており、両側の石は対面する内側の面を揃えて設置している。類例のない遺構であり、奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長の清水重敦氏を招聘し、調査指導を仰いだ。門などの建築物の礎石の可能性は低く、廻などの遮蔽施設の下部の通水施設の基礎や、溝状遺構を横断するための飛び石・木橋状の施設の基礎の可能性があるとのご意見を得た。今回の調査ではその性格を明らかにできなかったが、調査範囲の狭い現状では、それらの可能性を指摘するにとどめ、今後の類例の増加に期待したい。

溝状遺構からは奈良時代から平安時代の須恵器、縁釉陶器とともに、古代の瓦が出土している。軒瓦は確認できなかったが、近辺に瓦を使用した建造物の存在がうかがえる。また、内面に「夫」状の刻書をもった奈良時代の須恵器高杯も1点出土しており、識字層の存在を示唆するものとして注目できる。

伊勢国府や美濃国府など、国庁の周囲を溝状遺構で囲む例もあり、今回の調査で検出した溝状遺構も同様のものである可能性も捨てきれない。遺物からも、周辺に国庁を含めた役所群の建物の存在が想定される。



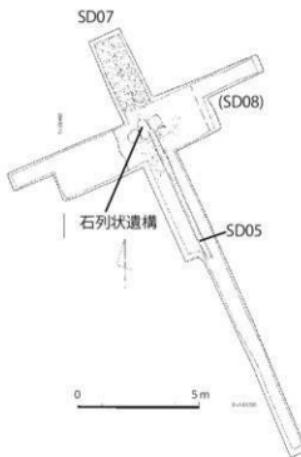
第14図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真 24 石列状遺構



写真 25 調査地遠景



第 15 図 奈良～平安時代の遺構配置図



写真 26 刻書須恵器

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 22 年度

平成 23 年 9 月 16 日 発行

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター

〒 762 - 0024

香川県坂出市府中町南谷 5001 番地の 4

電 話 (0877) 48 - 2191

F A X (0877) 48 - 3249

印 刷 株美巧社